

## なんば再選への決意



日本郵政グループ労働組合  
中央本部 書記次長

石川 幸徳

### 1. はじめに

私たちJP労組は、5年前の第22回と2年前の第23回の参議院選挙に、組織内から候補者を擁立して挑んだ。結果は、約24万人の組合員を擁する組織でありながらも、それぞれ約14万(当選)と約12万(落選)の得票数に終わった。もっとも、この得票数には退職者をはじめ組合員の家族や知人・友人、さらには他の支援団体の協力が含まれていることから、実際に投票した組合員は半数に満たないことが推測できる。

もちろん、思想信条の違いから支持政党が異なる人が組織内にいることは理解するが、組織があえて部内から独自候補を擁立してまで闘う意義が理解・浸透されていない現実、労働組合としての目的を遂げる上で団結力が不可欠なことから看過できない問題である。

一方で、自らの「雇用」や「労働条件」、さらには「生活」そのものに政治が大きな影響を及ぼしていることは実感しにくい。政治活動の重要性も理解されにくい。

そこで、私たちJP労組は時間をかけて選挙総括を行い、教育体系の見直しや政治学習会の拡充等、これまでの運動の見直しを図っている。とりわけ、各機関が組合員との接点を増やすことにより、まずは組合行事に参加してもらおうための関係づくりに取り組んで

いく必要がある。

### 2. 今回の取り組みポイント

間近に迫りつつある3回目の闘いのポイントは、「組合員チェックリスト」を作成し漏れのない取り組みを展開すること、また、リーダーの目の届く人数でグルーピングし、きめ細かな対応が可能となる態勢をつくることにある。また、全ての支部・分会でその態勢が整ってはいないが、既に各種の取り組みも始まっていることから、各種の取り組みを進めつつ態勢を整えていくこととする。とりわけ、最終目的は「投票につなげる」ことであることから、チェックリストによる点検とグルーピングの効果発揮で「全組合員による期日前投票」を実行し、必ずや再選を勝ち取りたい。

また、近年の運動は「一部の役員だけの運動となっている」との批判、というより警告も聞かれるが、献身的な役員の存在なくして運動が成り立たないのも事実である。こうした中で、過去2回の闘いにおいても支部・分会役員の徒労感が取り沙汰されたが、連合が

連合政治アンケート報告書(2015年2月実施)の「労働組合役員からの働きかけの影響」から抜粋

	働きかけなし	働きかけ1~2回	働きかけ3回以上
投票行動	70.5%	80.8%	91.4%
民主党への投票	22.9%	46.2%	66.9%
政治活動への参加・協力	46.4%	66.5%	80.7%
民主党支持率	18.4%	37.6%	56.0%

実施した政治アンケートでも組合役員による働きかけが組合員の投票行動に大きな影響を及ぼす結果が明らかにされた。特に、働きかけを何度となく繰り返すことで影響の度合いが高まるという結果は、役員にとって勇気の源となる。

### 3. 新たな課題

さて、過去には「投票日に無党派層が寝ていてくれるといい」と発言し、ひんしゅくを買った首相もいたが、これは無党派層の層が厚く彼らの投票行動いかんでは選挙結果に大きな影響を及ぼしかねないことの裏付けともいえる。

時は流れ、若者の政治離れや投票率の低下が著しいことから選挙権年齢の引き下げが実現し、いよいよ次回の参議院選挙からは18歳以上に拡大される見込みである。その結果、約240万人もの有権者が増えることになるというが、果たして目論み通りに新たに対象となる年齢層や20代の若者たちが投票に行くきっかけとなるのかは疑問である。

また、今回の改正を受け、新たに投票権を有することになる高校生を対象に、民主主義における選挙の意義や仕組みの理解が深まるよう学校での教育も行われるようであるが、民主主義の体現ともいべき労働組合に

おいても若年層組合員への啓発に努めなければならない。とりわけ、新たに対象となる組合員への啓発活動は、社会的責任の見地からもしっかりと取り組んでいきたい。

### 4. おわりに

先日、何ごとにも協力的な組合員から、「一度は、なんば議員に直接会って話が聞きたい」と言われた。しかし、直接会って政治課題を議論したいというわけではない。要は、直接会って話を聞くことによって、その人となりを知ったうえで応援したいという、ある意味当たり前の求めである。実現に尽力するが、改めて「人は人とのつながりによって行動する」ものなのだと感じた。

日常の取り組みのなかでも、「あなたに頼まれたら嫌とは言えないね」という有難い言葉を頂くこともあるが、そういった人間関係が労働組合や社会のなかでも大切な気がする。しかし、そうした関係は一朝一夕にできるものではない。日々のつながりを通して築かれていくものである。そういう意味からも、組合役員にとって大切なことは流暢な弁舌でなく、人に対する少しの思いやりとそこから導かれる一言の声掛けだということ自身を肝にも銘じたい。

なんば再選の取り組みは、単に政治力による雇用確保と労働条件等、生活の改善のみに止まらず、組合員と組合員の結びつき「絆」を深める重要なものである。